

大会時・コロナ禍での取組

・東京2020大会に備え、準備を開始

人の流れ

きっかけ

 以前より実施 オリバラ コロナ禍

- テレワーク・・・従前制度を活用。実施率約8割（国外は10割）
- オフピーク通勤・・・スーパーフレックス制度を導入（大会中は10時以降もしくは午後出社を推奨）
- 会議等のオンライン化・・・社内外ともにオンライン化
- 計画的な休暇取得の促進・・・従前の制度を活用・拡大（16日/年の取得促進）。一斉休業も実施
- サテライトオフィスの設置・管理・・・従前のシステムを活用。タッチダウンオフィスとして運用（国内約20拠点設置）
- 手続きの電子化・・・社内外ともに既存のシステムを活用
- 社用車の利用削減・・・利用を控え公共交通機関の利用を奨励

物の流れ

きっかけ

 以前より実施 オリバラ コロナ禍

- 発注時期の調整・・・自動車メーカーの在庫は2時間分程度
- 中間拠点の設置・・・従前より実施。中間地点に拠点設置で在庫確保
- 配送時間の変更・・・24時間稼働。顧客への納品時間の変更は未実施
- リードタイムの緩和・通常2時間ロットを4時間ロットに変更
- 配送ルートの変更・・・圏央道の内側を避けて迂回。実際には、無観客開催となり、殆どを通常ルートで実施

取組ポイント

- 新商品開発時の現物確認へのWEB活用を事前に検討・準備
- 勤怠はPCのログで管理
- 取引先の大手自動車メーカーの事業所近くにサテライトオフィスを増設

取組ポイント

- 自動車メーカーとの中間地点に拠点を設置しメーカー希望の複数回の納入を維持
- まとめて配送するための臨時的配送時間帯を設けて対応
- ロジスティクス会社と情報共有しながら渋滞回避ルート等を検討

今後の取組

人の流れ

継続して取組を実施予定

- テレワーク
- オフピーク通勤
- 会議等のオンライン化
- 計画的な休暇取得の促進
- サテライトオフィスの利用
- 手続きの電子化（社内・社外問わず）
- 営業車などの社用車の利用削減

物の流れ

- リードタイムの緩和
- 取引先との配送に関する調査
- 取引先や協力企業等サプライチェーンで連携した取組
- その他物流の効率化

【東京2020大会を振り返って】

- ・メーカーへの納品は遅滞なくできたが、書類関係の郵便物や研究所で作成された試作品（小物）等の宅急便等は、期日指定に間に合わなかったことが散見された。
- ・東京2020大会期間中は、輸出入ともに問題なかった。
- ・東京2020大会の物流に対する想定最大リスクについても、BCPは機能したことを確認できたため、今後の大阪万博等の大きなイベント時でも対応できると思う。